

# ASAM ODS Use-Case Analysis and Problem Resolution Determination

## ASAM ODSのユースケース分析と解決方法の決定

1. The members educate and share the concept of ODS meta-data relation and standardizing data.  
ODSのメタデータのリレーションとデータ標準化の仕組みの学習
2. The members investigate compatibility of data analysis among tools at NVH ODS data  
NVH ODSデータの解析における、Toolによる解析の互換性
3. The members educate and share stored data which was analyzed with an analyzing tool to ODS server.  
ODSデータを解析TOOLで解析した後、ODSサーバへ蓄積する事の学習  
The members investigate launcher application which delivers seeded data by ODS server to tool.  
ODSデータをサーバ側で検索した後、Toolへ渡すLauncherの活用

# Background and motivation

▶ The purpose of the work group is to investigate whether or not issues based on OEM use-cases exist in the standard ASAM ODS and were already remedied.

If solution exist in the standard, then it will be taught and shared among the work group members.

If no solution exist in the standard, then actions for remedying the issue will be developed and documented by the work group members, and potentially submitted as a change request to ASAM.

**ASAM ODSにおいてOEMのユースケースに基づいた問題点が既に解決しているかを調査し、解決しているのであれば、その方法の教育を行うこと。解決していないのであれば解決に向けた活動を行うこと。**

- To educate and share the issues which were already remedied potential work group activities are as following.

**すでに多くの人が解決している問題点を教育する事。**

- To investigate whether or not the ambiguities and other technical issues with ASAM ODS were already remedied, and to take actions for remedying the issue.

**すでに問題の解決が行われているかどうか曖昧なものを調査し解決する**

# Workgroup members

## ODSのメタデータのリレーションとデータ標準化の仕組みの学習

本田技術研究所 四輪R&D開発センター CIS	松下 愛則
本田技術研究所 四輪R&D開発センター CIS	山下 裕一
日野自動車株式会社 パワートレイン実験部	田上 佳弘
トヨタ自動車株式会社 技術管理部 情報システム室	松本 直樹
富士重工業株式会社 技術管理部	信平 栄喜
株式会社 東陽テクニカ	袋 晴夫
株式会社 東陽テクニカ 機械制御計測部	岡田 真澄
日本ナショナルインスツルメンツ株式会社	和氣 政哲
PVMsys Infra Solutions Pvt.Ltd.	桑田 武
株式会社堀場製作所 自動車計測システム設計部	徳平 征恒
dSPACE Japan ソリューション技術部	佐々木 茂
dSPACE Japan ソリューション技術部	堂畑 克彦
株式会社 小野測器 システム事業部 システム開発ブロック	三瓶 祐一郎
エイヴィエル・ジャパン パワートレインテストシステム事業部	増戸 幸司
エイヴィエル・ジャパン パワートレインテストシステム事業部	田崎 裕児
エイヴィエル・ジャパン	村上 高德
株式会社 明電舎	招 行正
株式会社 明電舎 技術部 動力計測システム技術第一	高畑 洋
株式会社 エー・アンド・デイ 設計開発本部 第8部	切石 裕元
一般財団法人 日本自動車研究所 国際渉外広報室	酒井 孝之

## NVH ODSデータの解析における、Toolによる解析の互換性

本田技術研究所 四輪R&D開発センター 3G2	渡邊 佳明
本田技術研究所 四輪R&D開発センター 11G6	坂本 浩介
株式会社 東陽テクニカ 機械制御計測部	岡田 真澄
シーメンス株式会社	伊島 豊

## ODSデータを解析TOOLで解析した後、ODSサーバへ蓄積する事の学習,ODSデータをサーバ側で検索した後、Toolへ渡すLauncherの活用

本田技術研究所 四輪R&D開発センター 3G2	青木 薫
本田技術研究所 四輪R&D開発センター CIS	本田 寛
トヨタ自動車株式会社 技術管理部 情報システム室	松本 直樹
株式会社 東陽テクニカ	袋 晴夫
株式会社 東陽テクニカ 機械制御計測部	岡田 真澄
日本ナショナルインスツルメンツ株式会社	櫻田 典世
株式会社堀場製作所 自動車計測システム設計部	徳平 征恒
株式会社 小野測器 電子計測事業本部 開発設計ブロック	佐藤 広幸
エイヴィエル・ジャパン パワートレインテストシステム事業部	増戸 幸司
エイヴィエル・ジャパン パワートレインテストシステム事業部	田崎 裕児
エイヴィエル・ジャパン	村上 高德
株式会社 明電舎	招 行正
株式会社 明電舎 技術部 動力計測システム技術第一	高畑 洋
株式会社 エー・アンド・デイ 設計開発本部 第8部	切石 裕元
一般財団法人 日本自動車研究所 国際渉外広報室	酒井 孝之

# Current status and (estimated) contribution

- ▶ ODSのメタデータのリレーションとデータ標準化の仕組みの学習
  - ・ ASAM CAT ODS Open Data Services 5.3.1 Introductionを題材にし、メンバーが正しく理解し共有出来る事を実施しました。  
現在は、ドキュメントの和訳を行い用語のディクショナリを作成が終了し、具体的なユースケースを差し込む段階です。
  - ・ 成果としては、判らない個所がハッキリし判ってきた事です。
- ▶ NVH ODSデータの解析における、Toolによる解析の互換性
  - ・ エンドユーザが集まらず、進め方の検討を行っている段階です
- ▶ ODSデータを解析TOOLで解析した後、ODSサーバへ蓄積する事の学習,ODSデータをサーバ側で検索した後、Toolへ渡すLauncherの活用
  - ・ メンバーの負荷オーバの為、進めていません

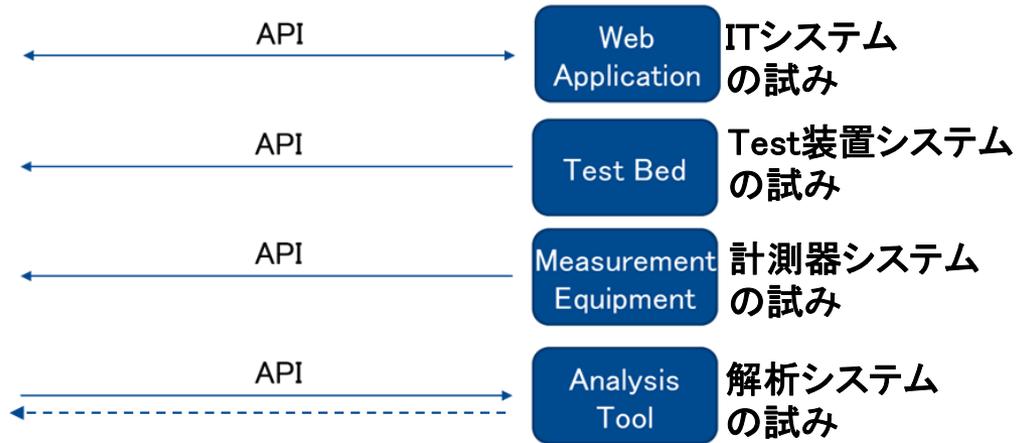
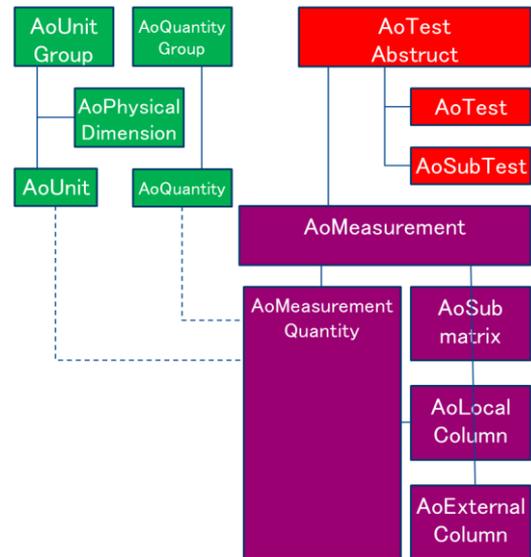
# Impression through the workgroup

- ▶ 日本国内では、ODSのアプリケーションモデルを作成した企業はありません。エキスパートがいない中でOEM, Tool Venderのエンジニアが集まり活動した事は有意義でありました。  
Validationの領域とITの領域を兼ねて活動する専門家がいまないのでODSが想定している専門家は、日本国内では今回の活動の様なコラボレーション型の試みが必要です。
- ▶ ドキュメントを日本語にする作業により、日本語でドキュメントを読む重要性が理解出来ました。  
この事は、今後のASAMの活動の課題であります。ODSの領域の様に具体的な経験が無い内容を理解する為には、初期の教育は、日本語で教育し、ある程度理解してきたら原文に切り替えていく事が必要だという事が判りました。
- ▶ 今後は、ODSの領域は、具体的な事例を持ちより共有する事で理解が進むと考えます。

# Future initiatives

- ▶ 果たしてASAMはOpenなのか  
今の状態では、日本国内でのASAMはOpenに感じる事が出来ません。  
日本国内のTool Venderや多くのエンジニアが理解する為には、かなり努力をしなければなりません。  
現在の日本の大学生は、何%の学生がASAMを知っているでしょうか  
誰も知らないスタンダードでは、スタンダードになりません。  
それではスタンダードを進化させる力が加わる事はありません。
- ▶ ASAMの日本の会員は、どの様にASAMのスタンダードを自らが理解し、多くのTool Venderや多くのエンジニアが理解して行くのかを考えなければなりません。  
AE領域と比較してもCAT領域は、一層の努力を必要とします。  
少し時間が掛かるかもしれませんが、一步一步着実に現状の課題を解決して行きたいと考えています。  
その為には、必要な教育やドキュメントを、早急に検討して行く必要があると考えます。  
より合理的で工数のかからない方法も検討する必要があります

共通データの  
の試み

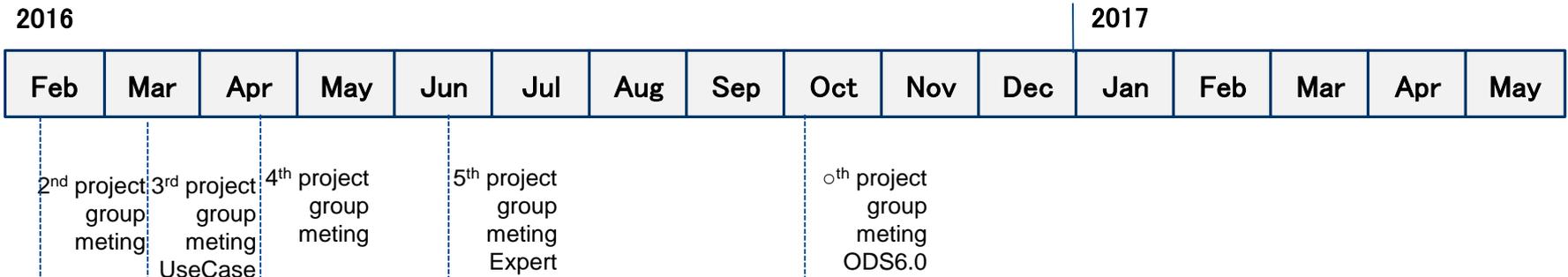


共通のベースモデルにする為の  
試み

ベースモデルに接続する為の試

Goal: 日本のエンジニアが、OEMエンジニアでもTool Venderエンジニアでも  
学生エンジニアでも、誰でも同じデータ環境の改善に取り組める事

Timeline



## ゴールに向かっての 提案

“進めて行きたい事”  
Work Group

ASAM ODSのユースケース  
分析と解決方法の決定

- ▶ 今時点で理解している範囲をメンバーで共有する
- ▶ 今時点で判らない範囲をODSの専門家と協議する機会を得て理解して行く
- ▶ 将来に向けて現在進んでいるASAM ODS(共通のデータ)の試みを私達も理解する。
- ▶ 上記の情報を基に、現状の共通のデータのベースモデルについて、一部のOEMだけではなく、多くのOEMで協議をし共通のデータに対する要求を明らかにする。
- ▶ 日本でASAM会員が集まり、共通のデータへのニーズについて協議する。